

近藤知子 (杏林大学)

JOS 第24巻3号は「作業科学の幅を見出す」をテーマとし、10編の論文が掲載されている。ゲスト編集者として巻頭言を記している Forwell はカナダの作業科学者であるが、「科学」という言葉を、複数の英辞典の記述を通して説明し、これらの辞書の語句に「実践活動」や「日常生活」という言葉が使われていることに触れ、作業の科学の妥当性と重要性について強調する。

本号で扱われる10編の論文は、ある作業の歴史、作業と他領域の理論との関係、一人の哲学者と作業科学との関係、脳科学、テクノロジー、高齢者の大規模調査、移行を取り巻く家族の経験、刺青を入れることの経験、求職活動の経験など、多岐にわたる。

第1編目は Wrisdale らによる論文で、「水や下水道の使用」という作業について南アフリカの水の使用に関する文献研究と2012年に南アフリカで実施した質的研究から明らかにしようとする。研究から、水の使用と作業に影響を与えるものには、環境、政策、社会—経済、態度要因があることが明らかになり、水の使用が作業的権利の一部であると考えられるべきであることを論じる。

第2編目は Anger によるもので、作業的公正という概念に心理学のエンパワメント理論をもちいることを勧める論文である。著者は、コミュニティ心理学のエンパワメント理論について記し、これを自身の臨床（アメリカ）で適用し成功した例を紹介する。そして、作業科学にとってのエンパワメント理論の有用性を支持する。

第3編目は Jansson らによるもので、アメリカに亡命したドイツのユダヤ人哲学者であり、Hannah Arendt (1906–1975)が「人間の条件 (The Human Condition)」という著書で伝えるのが、作業のより深い理解につながり、作業科学を支援することを記す。Arendt は人間の作業は常に調整されているとし、最近の作業科学文献で取り上げられている人間作業の領域の公共的側面も強調する。作業科学は衰退という側面も含め、人間作業のすべての側面を含む必要があり、「人間の条件」がこれに貢献できるだろうという考えが述べられる。

第4編目では Williams は、作業科学において依然として研究途上の概念である感覚処理と作業の関係について述べる。本論では、神経認知理論が、個別にそして全体的な人間—環境のトランザクションにおける相互作用の構成要素として、作業の意味づけ、作業の従事、社会参加、そして適応などの概念を探索するために作業科学で利用できるかもしれないとする。

第5編目は Fischl らが、日々の生活におけるデジタルテクノロジーの普及の中で、高齢者の日常生活上のデジタルテクノロジーを使った作業に従事の方法や、おかれた状況についてスウェーデン北部に住む10人の高齢者のナラティブ分析を行っている。ストーリーを通し、高齢者は自分のアイデンティティと折り合いをつけながらデジタルテクノロジーの中で日常生活に参加していることが、作業のレンズを通し理解できたことが提示される。

第6編目では、Lood が北スウェーデン地区のナーシングホーム居住者4451名の作業参加の状態を、症状、居住者の特製、ナーシングホームの特製、ナーシングホームの影響から調べた調査である。ここでは居住者の社会的作業参加は平均5.8回であること、認知障害の症状が少ないこと、女性であること、短入所期間が短いこと、認知症専門ケアユニット生活などが影響していることがあきらかになった。また、作業機会の提供のためにはさらなる研究が必要であることが提示されている。

第7編目は、Chapdelaine らによる現象学的アプローチを用いた研究で、高校に入るというトランジション（移行）を経験する子供を持つ親がどのような経験をするかを作業の視点で深く理解することを目的とし、カナダのバンクーバーとその周辺地域の公立高等学校の初年に子供がいる5人の母親からデータを収集したものである。この結果、母親の経験には、冒険、作業的欲求の誘導、コミュニケーションの再設計、共同的移行の4つのテーマが認められたとしている。

第8編目は、Kay らによるもので、刺青をいれることの個人的経験について6人の対象者に対するインタビューを質的現象学的アプローチで理解しようとしたものである。テーマには個人ニーズにあうための調整、肯定的な感情の生成、ボディーイメージの改善、他者関係の改善を含む8つのテーマが確認された。これらのテーマを著者らは、Wilcock (2006) のすること、あること、なること、属することのフレームで検討し、刺青を経験の側面と、作業の理論概念とをつなげる形で刺青という作業の理解を深めている。

第9編目は Bruyn によるもので、イギリスの研究者によるものでイギリスで仕事探しという作業をしたことがある人を対象とし、解釈学的現象学的分析を用いた論文である。一人の参加者に3回の面接が行われ個別、相互の分析が行われたところ(1)自己とアイデンティティの理解、(2)関係の理解、(3)求職活動を旅という3つのテーマが見出され、求職活動が形態、機能、意味が人や作業、環境に関係する内的要因や外的要因の影響を受ける豊かな人間の作業であると結論づける。

最後の論文は、Peter らによるもので、作業科学や作業科学研究者への提言のために、ヘルスリサーチの影響力を理解するために使われてきた方法とリサーチインパクトの定義や測定について行った文献レビューである。論文執筆者は方法の選択にあたっては評価の目的を熟考すべきこと、研究者はプロジェクトが終わる前にリアルタイムでその影響力についてのデータを集めるべきこと、リサーチインパクトを検討することは研究の質を高め資金を増し領域を進歩させること、大きな影響力を確保するためには政策立案者と潜在的な利用者に関与することを考えなければならないこと示唆している。

10編の論文の著者は、スウェーデン（3編）、南アフリカ（2編）、米国（2編）、カナダ（2編）、イギリス（1編）であるが、研究者が国を跨いで共同している論文も複数見られた。残念ながらアジア圏から執筆された論文は見られなかったが、作業科学の発展を目指してそれぞれが異なる対象、方法論、視点から作業を捉えており、作業科学の範疇の広さを再確認できる論文が掲載されている。

文献

- Laura Wrisdale, Matodzi Michael Mokoena, Lutendo Sylvia Mudau & Jo-Anne Geere To cite this article: Laura Wrisdale, Matodzi Michael Mokoena, Lutendo Sylvia Mudau & Jo-Anne Geere (2017) Factors that impact on access to water and sanitation for older adults and people with disability in rural South Africa: An occupational justice perspective, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 259-279, DOI: 10.1080/14427591.2017.1338190
- Joy Agner (2017) Understanding and applying empowerment theory to promote occupational justice, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 280-289, DOI: 10.1080/14427591.2017.1338191
- Inger Jansson & Petra Wagman (2017) Hannah Arendt's vita activa: A valuable contribution to occupational science, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 290-301, DOI: 10.1080/14427591.2016.1277780
- Kathryn L. Williams (2017) Understanding the role of sensory processing in occupation: An updated discourse with cognitive neuroscience, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 302-313, DOI: 10.1080/14427591.2016.1209425

- Caroline Fischl, Eric Asaba & Ingeborg Nilsson (2017) Exploring potential in participation mediated by digital technology among older adults, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 314-326, DOI: 10.1080/14427591.2017.1340905
- Qarin Lood, Sabine Björk, Anders Sköldunger, Annica Backman, Karin Sjögren & David Edvardsson (2017) The relative impact of symptoms, resident characteristics and features of nursing homes on residents' participation in social occupations: Crosssectional findings from U-Age Swenis, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 327-337, DOI: 10.1080/14427591.2017.1306721
- Sarah Chapdelaine, Heather Shields & Susan J. Forwell (2017) How mothers experience their adolescents' first year in high school, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 338-350, DOI: 10.1080/14427591.2016.1254675
- Hannah Kay & Claire Brewis (2017) Understanding tattooing from an occupational science perspective, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 351-364, DOI: 10.1080/14427591.2016.1241186
- Marna de Bruyn & Josh Cameron (2017) The occupation of looking for work: An interpretative phenomenological analysis of an individual job-seeking experience, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 365-376, DOI: 10.1080/14427591.2017.1341330
- Nedra Peter, Anita Kothari & Sara Masood (2017) Identifying and understanding research impact: A review for occupational scientists, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 377-392, DOI: 10.1080/14427591.2016.1277547